

目標をもつこと、その目的を考えること

校長 森谷 優子

8月に入り、北信越大会、県吹奏楽コンクールが行われ、お盆明けには全国大会が実施されました。中条中学校の快進撃に、多くの皆様より、賞賛や激励をいただいておりますことに、心より感謝申し上げます。

今年度は、新潟県で開催された競技もあり、選手の出場だけでなく、当校の教職員も多くの時間を割いて様々な競技の運営や審判にあたりました。

私は、続く県外出張の合間を縫って、いくつかの部の応援に駆け付けましたが、どの会場でも、大会ごとに成長していく生徒の姿、次は自分もこうなりたいと見つめる応援の生徒の姿、全力で子どもたちを支える保護者の皆様の姿が印象に残りました。

また、胎内市からは、他市にはない格別のご支援、ご協力をいただいております。子どもたちがこのように活躍できるのは、市行政が早い段階から仕組みを整え、地域と共に進んできたからこそその成果であると考え、感謝の念に堪えません。

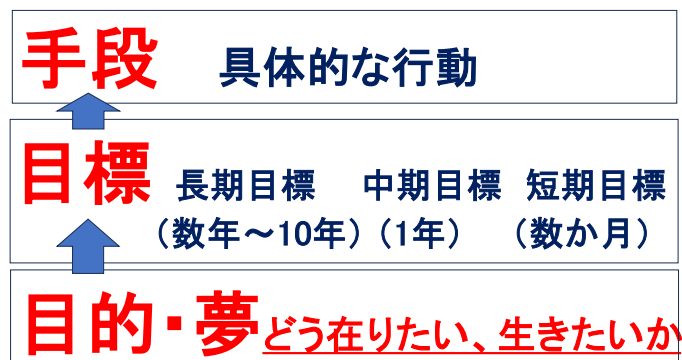
始業式で次のような話をしました。

「目標があると、どうやってそれを達成しようかという手段を考えて実行する」

でも、この先は、

「なぜ、その目標をもったのかという目的、つまり、自分はどう在りたいのか、どう生きたいのかを考えること」を考えることで、自分の未来に正対していきます。

例えば、短期目標なら、「テストで〇点とる」「体育祭で応援賞をとる」、中期目標なら、「〇〇大会で優勝する」「〇〇高校へ行く」、長期目標なら「〇〇の職業に就きたい」などが考えられますが、もう一步突っ込んで、自分はなぜ、そのような目標をたてたのかを自分に問うて、考えてみてほしいのです。



目標は、達成できることも、もしかしたらできないこともあります。できたできないで終わらせるのではなく、その根源である「目的」どうしてその目標を掲げたのか、を振り返ることで、次の未来が見えてきたり、自分がひと回り大きく成長することにつながったりするのではないかと考えています。

全国大会

<陸上競技> 共通男子 200m

ベスト16

(予選22秒20でB決勝へ)

<柔道部> 女子個人戦

48kg級 ベスト16

北信越大会、県吹奏楽コンクール

<バレーボール>

1回戦 中条中 0-2 LEAD(石川県)
惜敗

<男子ソフトテニス部>

団体戦 **ベスト8**

1回戦 中条中 3-0 箕輪中(長野県)

2回戦 中条中 0-2 宝達中(石川県)

個人戦

- ・ ペア 2回戦惜敗
- ・ ペア 1回戦惜敗

<胎内 JSTC>

団体戦 **3位**

1回戦 胎内 JSTC 3-0 D-club(富山県)

2回戦 胎内 JSTC 2-1 宝達中(石川県)

準決勝 胎内 JSTC 0-2 能美 Jr. STARS(石川県)

個人戦 ・ ペア **5位**

<陸上競技>

共通男子 200m

2位 22秒55

共通男子 砲丸投

14位 10m93

<柔道部>

男子個人戦

60kg級

1回戦惜敗

50kg級

1回戦惜敗

女子個人戦

48kg級 **3位**

70kg超級 **3位**

<吹奏楽部>

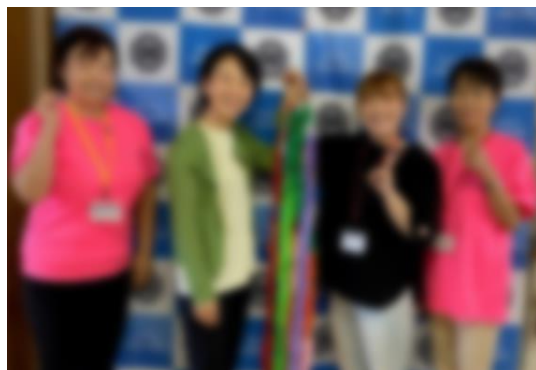
中学校 Bの部 **金賞** 西関東吹奏楽コンクールへ出場



広島平和記念式典

生徒会会長の3年の さんが、広島の平和記念式典へ胎内市の代表として参加しました。

全校生徒で折った折り鶴に、支え隊のみなさんが糸を通してくださいました。 さんは、ヒロシマにお供えしたそうです。平和への祈りが届きますように。



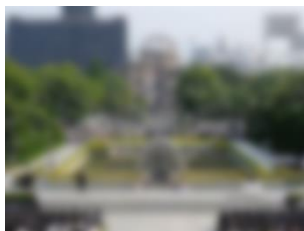
忘れられない時間

1945年8月6日8時15分、ドーンという大きな音と共に、広島の当り前の日常は一瞬にして奪われました。アメリカ軍によって落とされたたった一発の原子爆弾。これがどれだけ悲惨で残酷なものかを実際広島に行き学んできました。

広島平和記念資料館には、ボロボロになった制服や薬包紙に書かれた遺書、当時、撮られた写真など様々なものが展示されていました。展示されていたものすべてが本当にこの日本で起こったことなのか疑いたくなるほど残酷なものばかりでした。たくさん展示物の中で、私は「血の斑点」や「死の斑点」が印象に残りました。これは、原子爆弾による放射線によって、体に出てくる斑点で、斑点が出た人は生き残ることができなかったそうです。個の斑点が出てきた瞬間、死を覚悟しなければならいなんて、なんて残酷なのだろうと想像しただけでとても辛くなりました。

この二日間を通して、79年たった今でも原子爆弾の後遺症や戦争によって苦しめられている人が数えきれない位いるということを身に染みて感じました。そして、もう戦争は二度としてはいけないと思っただけではなく、行動に移さなければならぬと実感しました。そのために私たちができることと言えば、戦争の悲惨さ、残酷さを知り、それをたくさんの人に伝えていくことだと思います。

世界で起こっている戦争が終わり、世界中の人々が平和だと感じる日がやってくることを信じ続けて行動していきます。

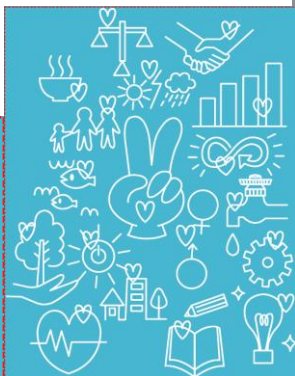


JRC下越地区トレーニングセンター

8月2日（金）青少年自然の家を会場に、「日本赤十字主催 下越地区トレーニングセンター」が行われました。当校からは4人の生徒が参加しました。赤十字は人道を目標とした世界最大のネットワークで“平和と人類の福祉に貢献する”素地づくりを目指し、昭和35年から取組を続けています。この度、JRC下越地区のTシャツが作られ、 さんがデザインを担当しました。

大好評であちこちから喜びの声が寄せられています。

テーマは、SDGsです。



Sサイズ





三市北蒲原郡地区「わたしの主張大会」優秀賞

伝え続ける

3年

さん(胎内市代表)

沖縄県渡嘉敷村。私は、「日本PTA国内研修事業in渡嘉敷村」に参加しました。今から約三カ月前、三月下旬のことです。渡嘉敷村は、沖縄本島から約三十キロメートル離れたところにあり、「ケラマブルー」と呼ばれる、とても透明度の高い海で有名です。そのため、ダイビングをして海を楽しむ人たちからすれば、天国の島として知られています。また、島の近くにザトウクジラが姿を見せ、ホエールウォッチングも楽しめるそうです。そんな楽園で、私は、これまで生きてきた十四年間で一番、驚いた経験をしました。集団自決。この四文字の本当の意味を知ったのです。「アメリカ軍に殺されるなら、自ら死ぬ。」という考えで、一九四五年の三月二十八日、三〇〇人以上の住民が亡くなりました。

当時の様子を客観的に伝える資料として、一九四五年、四月二日、集団自決五日後のロサンゼルス・タイムスの朝刊が展示されてありました。死体あるいは瀕死となった日本人で埋め尽くされていた。足の踏み場もないほどに、密集して人々が倒れていた。三〇〇人以上というのも事実のようです。次のような記述もありました。ボロボロになった服を引き裂いた布はしで首を絞められている女性や子供が、少なくとも四十人はいた。聞こえてくる唯一の音は、怪我をしていながら死にきれない幼い子供達が発するものだった。

どんな気持ちで同じ家族、または同じ集落の住民の首を絞めたのでしょうか。死にきれない幼い子供は、誰に何を伝えたかったのでしょうか。胸が詰まります。これ以上の地獄絵図はないでしょう。

その集団自決跡地に行きました。七十九年前、ここで何があったかを想像すると、私も一緒に訪れた友達も、言葉を発することができませんでした。悲しみ、信じられなさ、幸せな自分、申し訳なさ、祈り……、一度にさまざまな思いが押し寄せ、息が苦しくなりました。

私は、この経験を通して、改めて戦争は絶対にしてはいけないということを実感しました。

私達が生まれたこの時代には、日本にとって戦争というものがあまり身近にはなくて、戦争がどれだけ残酷なもので、どれだけ辛いものなのかを知っている人は、ほとんどいないと思います。私自身もそうです。実際に戦争を経験したことがないので、戦争の残酷さを知ることはできません。でも、それでいいのでしょうか。自分達が経験したことがないから、もう過去のことだからといって、戦争について、知ったり、考えたりすることがなくなってしまっただけなのでしょうか。私は絶対にそんなことがあってはいけないと思います。

このことに関係する、気になる動画をSNSで見たことがあります。原子爆弾が落とされた日や、終戦記念日をインタビューしている動画です。

終戦記念日などの全ての質問に正しく答えられた人は、一人もいなかったのです。

このような現実が当たり前にならないようにするため、日本全体として、もっと戦争について触れる機会を増やしていくべきだと思います。

例えば、七月は、積極的に歴史や戦争についての話を読んだり、動画を見たりする月間にしてはどうでしょうか。学校でも、朝読書をしていますが、図書室から戦争関連の本を運び出して学級に置き、手に取りやすくするのです。

私はこれから生きていく中で、戦争についてももっともっと知りたいです。幸いなことに、私は八月上旬に、胎内市の事業で広島へ行くことができました。そういう機会をいただけてとても感謝しています。「広島平和記念資料館」や「原爆ドーム」で戦争の恐ろしさを学び、周りの人に伝える必要性を強く感じました。

今、広島で学んだことを二学期の生徒朝会で発表しようと準備を進めています。そうすることで、少しでも皆に関心を持ってもらいたいと思います。また、それで終わりにするのではなく、友達との日常会話で広島の経験を話題にしたり、世界各地で起きている戦争に関心をもったりしていきたいです。

そして、いつか戦争のない世界になることを願い続け、行動し続けていきます。